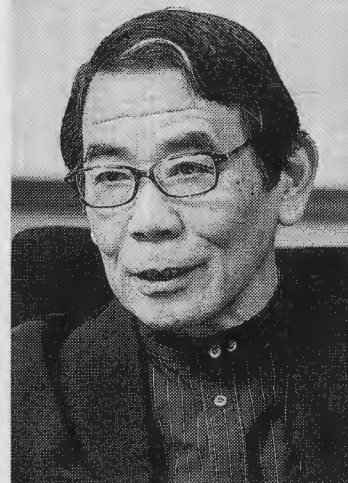


未来に生きる世代が頑張れる国創りを

憲法 インタビュー



拓殖大学学事顧問・前総長

渡辺 利夫氏

インタビュー

内外ニュース・企画担当 紺田 康夫

内外ニュース「創業45周年記念特集号」の第3弾として、「教育対談」「エネルギー座談会」に続き、「憲法インタビュー」を実施した。いま日本を取り巻く国際環境は、多極化・多様化のなかで、極東アジアはもろろんのこと、まさに混沌を深めている。また今年には、憲法施行70年目の節目にも当たり、次なる70年に向かって自らの手で切り拓く「未来に生きる世代が頑張れるような国創り」をめざし、「国の道筋を明確にする」「家族、共同体、国家の尊厳とは何か」などを中心に、拓殖大学学事顧問の渡辺利夫氏に、特に憲法と国体(国柄)の在り方についてインタビューをした。

紺田 最初に、昨年9月に成立しました、平和安全法制について、ご感想をお聞かせください。

渡辺 大騒ぎの末にようやく成立。多少、安堵はしています。「集団的自衛権行使容認」により、これまでの懸案が解決の方向に向けてハーフステップ前進できました。ただし、ここでの集団的自衛権は極めて限定的な行使容認で、日本の存立が根底から覆される「存立危機事態」のような場合に初めて発動できるものとされています。

しかし、それがどのような事態なのか、少々不鮮明です。しかも、あのように限定的に条文を設定してしまうと、実際に事が起こった時に、現に今、その状態がやってきそう

なされていないことです。こんなことではないわけがない。

紺田 憲法の前文には、何を守るのか、国体(国柄)が書かれていないという点ですか。

渡辺 日本の歴史、文化、伝統を含め、「国体」というよりは「国柄」です。どういふ国柄の日本をつくるべき

か、その国柄をどうに守るかということですが、官邸も自衛隊も極めて動きにくいのではないかと思います。ところで問題は、個別的自衛権や集団的自衛権の議論においては、そのテーマが「いかに国を守るか」ばかりに集中して、「何を守るのか」という議論が全く

なされていないことですが、我々が国の憲法は、「平和を愛する諸国民の公正と信義に信頼して、われらの安全と生存を保持しようと決意した」とあります。日本を守るために日本人は、自分の手は汚さずに、「あなた任せ」になっていきます。独立自尊の精神が、全く見

られませんが、結局、素材を使い、同じ技術により宝物を造って移し変えます。これが690年の持統天皇の時代から62回繰り返されてきました。これはもう日本の歴史の連続性を示すもので、何ものでもありません。

憲法には「守るべき日本の国柄」明記を 日本は「同質性」「連続性」の唯一の国家

るわけですからね。ところが我が国の憲法は、「平和を愛する諸国民の公正と信義に信頼して、われらの安全と生存を保持しよう」と決意したとあります。日本を守るために日本人は、自分の手は汚さずに、「あなた任せ」になっていきます。独立自尊の精神が、全く見

られませんが、結局、素材を使い、同じ技術により宝物を造って移し変えます。これが690年の持統天皇の時代から62回繰り返されてきました。これはもう日本の歴史の連続性を示すもので、何ものでもありません。

は、伊勢神宮の式年遷宮です。20年に一回、隣の敷地に、全く同条が、共同体と家族の崩壊をもたらした最悪のリベラリズム(思想)の憲法上の根拠である「おっしゃられていますね。まず憲法第13条には、「すべて国民は、個人として尊重される」と書かれています。

渡辺 個人は英語で「インディビデュアル」

「連続性」というキーワードは、どのようか、これが憲法の全体系の精神をうたうはずの前文には、国体はもとより国柄も書かれていません。ほとんどの国の憲法には、「守るべき祖国とは何か」が書いてあります。憲法は、そのためにこそ存在するべきか、

紺田 先生は以前から、「憲法第13条と第24条が、共同体と家族の崩壊をもたらした最悪のリベラリズム(思想)の憲法上の根拠である」とおっしゃられていますね。まず憲法第13条には、「すべて国民は、個人として尊重される」と書かれています。

「連続性」というキーワードは、どのようか、これが憲法の全体系の精神をうたうはずの前文には、国体はもとより国柄も書かれていません。ほとんどの国の憲法には、「守るべき祖国とは何か」が書いてあります。憲法は、そのためにこそ存在するべきか、

紺田 日本の国柄をどうに守るかということですが、官邸も自衛隊も極めて動きにくいのではないかと思います。ところで問題は、個別的自衛権や集団的自衛権の議論においては、そのテーマが「いかに国を守るか」ばかりに集中して、「何を守るのか」という議論が全く

なされていないことですが、我々が国の憲法は、「平和を愛する諸国民の公正と信義に信頼して、われらの安全と生存を保持しよう」と決意したとあります。日本を守るために日本人は、自分の手は汚さずに、「あなた任せ」になっていきます。独立自尊の精神が、全く見

られませんが、結局、素材を使い、同じ技術により宝物を造って移し変えます。これが690年の持統天皇の時代から62回繰り返されてきました。これはもう日本の歴史の連続性を示すもので、何ものでもありません。

渡辺 個人は英語で「インディビデュアル」

「連続性」というキーワードは、どのようか、これが憲法の全体系の精神をうたうはずの前文には、国体はもとより国柄も書かれていません。ほとんどの国の憲法には、「守るべき祖国とは何か」が書いてあります。憲法は、そのためにこそ存在するべきか、

紺田 日本の国柄をどうに守るかということですが、官邸も自衛隊も極めて動きにくいのではないかと思います。ところで問題は、個別的自衛権や集団的自衛権の議論においては、そのテーマが「いかに国を守るか」ばかりに集中して、「何を守るのか」という議論が全く

なされていないことですが、我々が国の憲法は、「平和を愛する諸国民の公正と信義に信頼して、われらの安全と生存を保持しよう」と決意したとあります。日本を守るために日本人は、自分の手は汚さずに、「あなた任せ」になっていきます。独立自尊の精神が、全く見

られませんが、結局、素材を使い、同じ技術により宝物を造って移し変えます。これが690年の持統天皇の時代から62回繰り返されてきました。これはもう日本の歴史の連続性を示すもので、何ものでもありません。

渡辺 個人は英語で「インディビデュアル」

「連続性」というキーワードは、どのようか、これが憲法の全体系の精神をうたうはずの前文には、国体はもとより国柄も書かれていません。ほとんどの国の憲法には、「守るべき祖国とは何か」が書いてあります。憲法は、そのためにこそ存在するべきか、

「連続性」というキーワードは、どのようか、これが憲法の全体系の精神をうたうはずの前文には、国体はもとより国柄も書かれていません。ほとんどの国の憲法には、「守るべき祖国とは何か」が書いてあります。憲法は、そのためにこそ存在するべきか、

紺田 日本の国柄をどうに守るかということですが、官邸も自衛隊も極めて動きにくいのではないかと思います。ところで問題は、個別的自衛権や集団的自衛権の議論においては、そのテーマが「いかに国を守るか」ばかりに集中して、「何を守るのか」という議論が全く

なされていないことですが、我々が国の憲法は、「平和を愛する諸国民の公正と信義に信頼して、われらの安全と生存を保持しよう」と決意したとあります。日本を守るために日本人は、自分の手は汚さずに、「あなた任せ」になっていきます。独立自尊の精神が、全く見

られませんが、結局、素材を使い、同じ技術により宝物を造って移し変えます。これが690年の持統天皇の時代から62回繰り返されてきました。これはもう日本の歴史の連続性を示すもので、何ものでもありません。

渡辺 個人は英語で「インディビデュアル」

「連続性」というキーワードは、どのようか、これが憲法の全体系の精神をうたうはずの前文には、国体はもとより国柄も書かれていません。ほとんどの国の憲法には、「守るべき祖国とは何か」が書いてあります。憲法は、そのためにこそ存在するべきか、

「連続性」というキーワードは、どのようか、これが憲法の全体系の精神をうたうはずの前文には、国体はもとより国柄も書かれていません。ほとんどの国の憲法には、「守るべき祖国とは何か」が書いてあります。憲法は、そのためにこそ存在するべきか、

紺田 日本の国柄をどうに守るかということですが、官邸も自衛隊も極めて動きにくいのではないかと思います。ところで問題は、個別的自衛権や集団的自衛権の議論においては、そのテーマが「いかに国を守るか」ばかりに集中して、「何を守るのか」という議論が全く

なされていないことですが、我々が国の憲法は、「平和を愛する諸国民の公正と信義に信頼して、われらの安全と生存を保持しよう」と決意したとあります。日本を守るために日本人は、自分の手は汚さずに、「あなた任せ」になっていきます。独立自尊の精神が、全く見

られませんが、結局、素材を使い、同じ技術により宝物を造って移し変えます。これが690年の持統天皇の時代から62回繰り返されてきました。これはもう日本の歴史の連続性を示すもので、何ものでもありません。

渡辺 個人は英語で「インディビデュアル」

「連続性」というキーワードは、どのようか、これが憲法の全体系の精神をうたうはずの前文には、国体はもとより国柄も書かれていません。ほとんどの国の憲法には、「守るべき祖国とは何か」が書いてあります。憲法は、そのためにこそ存在するべきか、

「連続性」というキーワードは、どのようか、これが憲法の全体系の精神をうたうはずの前文には、国体はもとより国柄も書かれていません。ほとんどの国の憲法には、「守るべき祖国とは何か」が書いてあります。憲法は、そのためにこそ存在するべきか、

紺田 日本の国柄をどうに守るかということですが、官邸も自衛隊も極めて動きにくいのではないかと思います。ところで問題は、個別的自衛権や集団的自衛権の議論においては、そのテーマが「いかに国を守るか」ばかりに集中して、「何を守るのか」という議論が全く

なされていないことですが、我々が国の憲法は、「平和を愛する諸国民の公正と信義に信頼して、われらの安全と生存を保持しよう」と決意したとあります。日本を守るために日本人は、自分の手は汚さずに、「あなた任せ」になっていきます。独立自尊の精神が、全く見

られませんが、結局、素材を使い、同じ技術により宝物を造って移し変えます。これが690年の持統天皇の時代から62回繰り返されてきました。これはもう日本の歴史の連続性を示すもので、何ものでもありません。

渡辺 個人は英語で「インディビデュアル」

「連続性」というキーワードは、どのようか、これが憲法の全体系の精神をうたうはずの前文には、国体はもとより国柄も書かれていません。ほとんどの国の憲法には、「守るべき祖国とは何か」が書いてあります。憲法は、そのためにこそ存在するべきか、

「連続性」というキーワードは、どのようか、これが憲法の全体系の精神をうたうはずの前文には、国体はもとより国柄も書かれていません。ほとんどの国の憲法には、「守るべき祖国とは何か」が書いてあります。憲法は、そのためにこそ存在するべきか、

紺田 日本の国柄をどうに守るかということですが、官邸も自衛隊も極めて動きにくいのではないかと思います。ところで問題は、個別的自衛権や集団的自衛権の議論においては、そのテーマが「いかに国を守るか」ばかりに集中して、「何を守るのか」という議論が全く

なされていないことですが、我々が国の憲法は、「平和を愛する諸国民の公正と信義に信頼して、われらの安全と生存を保持しよう」と決意したとあります。日本を守るために日本人は、自分の手は汚さずに、「あなた任せ」になっていきます。独立自尊の精神が、全く見

られませんが、結局、素材を使い、同じ技術により宝物を造って移し変えます。これが690年の持統天皇の時代から62回繰り返されてきました。これはもう日本の歴史の連続性を示すもので、何ものでもありません。

渡辺 個人は英語で「インディビデュアル」

「連続性」というキーワードは、どのようか、これが憲法の全体系の精神をうたうはずの前文には、国体はもとより国柄も書かれていません。ほとんどの国の憲法には、「守るべき祖国とは何か」が書いてあります。憲法は、そのためにこそ存在するべきか、

「連続性」というキーワードは、どのようか、これが憲法の全体系の精神をうたうはずの前文には、国体はもとより国柄も書かれていません。ほとんどの国の憲法には、「守るべき祖国とは何か」が書いてあります。憲法は、そのためにこそ存在するべきか、

紺田 日本の国柄をどうに守るかということですが、官邸も自衛隊も極めて動きにくいのではないかと思います。ところで問題は、個別的自衛権や集団的自衛権の議論においては、そのテーマが「いかに国を守るか」ばかりに集中して、「何を守るのか」という議論が全く

なされていないことですが、我々が国の憲法は、「平和を愛する諸国民の公正と信義に信頼して、われらの安全と生存を保持しよう」と決意したとあります。日本を守るために日本人は、自分の手は汚さずに、「あなた任せ」になっていきます。独立自尊の精神が、全く見

られませんが、結局、素材を使い、同じ技術により宝物を造って移し変えます。これが690年の持統天皇の時代から62回繰り返されてきました。これはもう日本の歴史の連続性を示すもので、何ものでもありません。

渡辺 個人は英語で「インディビデュアル」

「連続性」というキーワードは、どのようか、これが憲法の全体系の精神をうたうはずの前文には、国体はもとより国柄も書かれていません。ほとんどの国の憲法には、「守るべき祖国とは何か」が書いてあります。憲法は、そのためにこそ存在するべきか、

3面に続く

ル」ですが、福沢諭吉はこの英語を見て、訳すに訳せなかつたと言っています。日本には存在しない観念ですから。それで彼は、「独一人」と訳したのです。もうこれ以上分けることができない「個」というわけです。

「個人」というのは絶対的存在であり、権力者が個人の自由や権利を侵すことができないようにしなければなりません。これがフランス革命の思想です。個人が何にも勝り、尊重されなければならないという思想です。

しかし、このような伝統が日本にあったでしょうか。日本では全ての間は家族、血縁の成員なのです。つまり「個人」として尊重されるという考え方は、今なお日本人の中に根付いていません。

にもかかわらず、個人を尊重し、共同体を破壊しつづけています。「個人の生存権」ばかりがうたわれ、「家族の生存権」がないがしろにされ、家族が崩壊し、少子高齢化という取り返しのつかない人口構造に日本はなっています。

細田 次に、憲法第24条には「婚姻は両性の合意のみに基づいて成立する」と書かれています。

と個人が、誰の介入もなく結びつけてできるものが婚姻であり、同時に両性は平等であるというわけですね。しかしこの中には「婚姻とは、家族という共同体の一番基礎的なベースである家族をつくるものだ」という感覚が、どこにもありません。

出生率の低下が著しいですね。昨年は出生数がついに100万人を割りました。日本の人口は2004年の1億2708万人をピークに、いずれ8000万人になるといわれていますが、これで日本という国家が存立できません。自衛隊は成り立たない。

警察は機能不全になる。周辺諸国との国力の差が大きくなり、二流国から三流国に落ちています。第13条と第24条は、「我が内なる敵」なのです。

東日本大震災の時の廃棄物の問題は、今なお残る大問題です。大地震発生間もない段階で、がれきは発生地で、つまり県内処理という原則が立てられました。そして県内処理できない分を、公域処理と言っている、他県が引き取ることになったのですが、各県の反勢力が「俺の



渡辺利夫氏(右)と紺田康夫

日本人は「個体至上主義」から脱却せよ

「憲法9条改正」が安倍政権の正念場

が、すまじいものになってきました。そのうえ、朝鮮半島が危うくなり、中国の海洋膨張もありま

「9条を守る。変えない」という前提で、憲法解釈のマキシマムをやってみせたいというのが平和安全法制です。しかし、もうこれも限界であり、やはり9条2項を変えて、「戦力を持った国軍を保有する」ということにしないと、どうにもならないと思います。最近はその第1項、第2項はそのままにして、第3項をつくりたいと安倍さんは言っていますね。

細田 憲法第9条第2項を変えるために必要なことは何ですか。

渡辺 今の極東アジア

「わたなべ」としお 1939年6月甲府市生まれ。慶応義塾大学、同大学院修了。経済学博士。筑波大学教授、東京工業大学教授、拓殖大学総長を経て現職。外務省国際協力に関する有識者会議議長。外務大臣表彰。正論大賞。著書は「成長のアジア 停滞のアジア」(吉野作造賞)、「開発経済学」(大平正芳記念賞)、「西太平洋の時代」(アジア太平洋賞大賞)、「神経症の時代」(開高健賞)、「放哉と山頭火」(死を生きる)など多数。

分の犠牲を払うことに対しては、非常に強く逡巡する国家という意味で、エゴイストです。現実となった今の軍事的脅威、例えば北朝鮮の金正恩が核ミサイルの発射ボタンを押す可能性はあるわけです。そのための議論がなされないでいいわけがありません。

「策源地攻撃」について、これから国会で議論しようという空気がようやく出てきたのですが、北朝鮮が今にもボタンを押そうと思

「策源地攻撃」について、これから国会で議論しようという空気がようやく出てきたのですが、北朝鮮が今にもボタンを押そうと思

「策源地攻撃」について、これから国会で議論しようという空気がようやく出てきたのですが、北朝鮮が今にもボタンを押そうと思



紺田康夫

を保持しない。国の交戦権は、これを認めない」にあります。これでは自衛隊の存在は明らかに違憲となってしまうし、集団的自衛権の行使が容認されたいと言っても、自衛隊にできることには限りがあります。

米ソ冷戦の中で日本は、アメリカの核の傘の下で経済成長をし、国防のことなど考えもせず豊かな生活を享受してきました。

しかし、冷戦が崩壊して以降、人種や宗教、言語を要因とする対立

の第13条と第24条にあると私は見えています。

細田 憲法第9条に移りますが、この第2項が問題である。

渡辺 憲法第9条第1項の「日本国民は、正義と秩序を基調とする国際平和を誠実に希求し、国権の発動たる戦争と、武力による威嚇又は行使は、国際紛争を解決する手段としては、永久にこれを放棄する」というのは、このままでいいと思います。

問題は憲法第9条第2項の「前項の目的を

ア地政学は非常に危ういのですが、この危うさの中で、日本をどうするかという選択を究極的に国民に迫る状況が出てこない、第9条を変えるという方向に舵が取れないのです。困った国論ですよ。

日本という国は、国際的利益は享受しながら、国際的な協力や自

「策源地攻撃」について、これから国会で議論しようという空気がようやく出てきたのですが、北朝鮮が今にもボタンを押そうと思

「策源地攻撃」について、これから国会で議論しようという空気がようやく出てきたのですが、北朝鮮が今にもボタンを押そうと思

「策源地攻撃」について、これから国会で議論しようという空気がようやく出てきたのですが、北朝鮮が今にもボタンを押そうと思

本社からのお知らせ

◆東京講演・懇談会
▽6月6日(火)衆議院議員、石破茂氏「これからの政治課題」

◆会場「ザ・キャピトルホテル東急1F「鳳凰」

◆地方講演・懇談会
▽6月21日(水)周南

大武健一郎氏「超高齢社会に向かう日本経済の行方」

▽パラダイム転換の世界の中で

などという自虐的な物言いはやめて、日米同盟の信頼関係をより深め、その抑止力により、敵の行動を抑止することが目下の最重要課題です。

日本が生き延びていくために、日米同盟の抑止力を最大限有効に使いながら、その間に、日本の自主防衛力を高めていくという決断を今、選択しなかつたら、将来の日本は危ないと思います。

細田 今日本当に多岐、多方面に亘ったお話をありがとうございました。